

「川に学ぶ体験活動協議会」活動紹介

川に学ぶ体験活動協議会 事務局長 齊藤 隆

川に学ぶ体験活動協議会（略称RAC）は、「川の指導者」の育成や様々な活動を通じて川と人々との関係をより深いものにしていくことを目的として、平成12年9月に設立され、平成16年1月現在、120団体が加入しています。またNPO法人として活動するために、申請を完了し認証を待つ段階です。

今年度の「川に学ぶ」体験活動全国大会は徳島県の吉野川にて開催しました。今回の活動紹介は、その全国大会の様子を中心にご紹介いたします。

【第3回川に学ぶ体験活動全国大会 徳島大会】

この全国大会は、「川に学ぶ」社会の形成を目指し、全国各地・日常的に川で遊び学ぶという、古き良き川文化をもう一度復活させることを目的に、河川審議会小委員会報告（平成10年6月）等を受けて開催しているものです。平成10年より、静岡県、岩手県、京都府で開催し、その後民間主導で岡山県、福岡県で開催され、今回で3回目となる徳島大会は、吉野川河川敷（徳島市内）で毎年開催されている「吉野川フェスティバル」との併設体験イベント型で開催しました。



1日目の事例発表会では、学校の先生も一緒に取り組んでいる地域の溜池活動や、子どもについてきた主婦がレスキューの国際資格を取得し体験活動のリーダーとして活躍している団体の紹介等、とてもユニークな11の事例の発表がありました。そして交流会は3日間打ち上げ花火を行っている「吉野川フェスティバル」会場内の特設ステージで行い、全国各地の方々との体験談など尽きることのない話題で交流を深める機会となりました。



2日目の朝7時から、フェスティバル会場周辺のクリーンアップ作戦の後、レスキュー体験やEポート・カヌー体験乗船、水底観測等様々な体験プログラムを行いました。

まとめの全体会では、各分科会から出された課題や提案等を整理。「整備された都市河川でも楽しく遊ぶ方法」や「川の危険を避ける方法」、



「水辺体験活動に消極的な学校や教育委員会の壁を乗り越える方法」等話し合うにつれて、川に学ぶ体験活動協議会で推進する川の指導者育成や、子どもの水辺サポートセンターの重要性を再確認することとなりました。

いずれにしても「川で学ぶ」社会を形成していくには、指導者がその意義を十分に理解し、子どもを楽しく安全に導くことが重要です。

【第2回RACフォーラム】

今年度、川の指導者講習会は全国各地の25箇所で開催され、約600名の初級指導者（川のサブリーダー）が育成されました。その指導者や河川・教育関係者等が一堂に会して、指導の質的向上や相互交流することを目的に、1泊2日での研修会を、来る2月28日（土）・29日（日）に東京都足立区（塚本研修センター）にて開催します。当研修会は『声に出して読みたい日本語』著者（齋藤孝）による『会議革命』の手法などを取り入れ、参加者自らが作りあげていく形式で運営する予定です。詳細につきましては下記ホームページをご参照下さい。

水辺での体験活動を通じて山紫水明の日本を蘇らせるためには、その活動が多くの方から支えられ継続されることが必要です。1人でも多くの方々からの当協議会への温かい支援をお願いします。（RACの詳しい事業計画、収支内容等については、RACのメルマガやホームページにてお知らせしていますので、ぜひご覧下さい。）

《川に学ぶ体験活動協議会》

東京都中央区入船1-9-12 河川環境管理財団内
TEL.03-3297-2608 FAX.03-3297-2609

（子どもの水辺サポートセンター内）

<http://www.rac.gr.jp>